

## Salt intake in 3-year-old Japanese children

守永, 友希

<https://hdl.handle.net/2324/2348726>

---

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	守永 友希
論文名	Salt intake in 3-year-old Japanese children
論文調査委員	主査 九州大学 教授 二宮 利治 副査 九州大学 教授 大賀 正一 副査 九州大学 教授 筒井 裕之

### 論文審査の結果の要旨

減塩は高血圧の予防や管理のために広く推奨されているが、わが国では未だ十分な減塩が進んでいない。そのため、効果的に減塩を進めるためには、小児期より食塩摂取量を減らすことは非常に重要である。本研究では、わが国の小児の食塩摂取量を調査することを目的とした。保健所で3歳児健診を受診した幼児1424名において、早朝第一尿を用いて、尿中ナトリウム、カリウム、クレアチニン値を測定した。さらに、対象児の保護者を対象として子供の食習慣に関するアンケート調査を行った。

その結果、尿中ナトリウム、カリウム濃度はそれぞれ、 $140 \pm 67$ 、 $67 \pm 41$  mmol/lであり、推定尿中ナトリウム排泄量は $75 \pm 47$  mmol/日(食塩相当量4.4g/日)であった。尿中ナトリウム排泄量が100 mmol/日(食塩相当量5.9g/日)を超えた者はそれぞれ24%であった。尿中ナトリウム排泄量は年上の同胞をもつ幼児の方が、持たない幼児に比べ有意に高かった( $78 \pm 49$  vs.  $72 \pm 45$  mmol/日、 $p < 0.05$ )。毎日間食をする習慣のある幼児は、そうでない幼児に比べ尿中ナトリウム排泄量が多い傾向を示した( $76 \pm 48$  vs.  $71 \pm 44$  mmol/日、 $p = 0.07$ )。

以上の成績は、3歳児の多くが過剰に食塩を摂取しており、年上の同胞の存在や日常の間食などの食習慣が食塩摂取量に影響を与えていることを示唆するものであり、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられた。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、実施成績などについて説明を求め、各調査員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても適切な解答を得た。よって、調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。